# 自分たちの島は 自分たちで守る 相島少年消防クラブ

新宮漁港から町営渡船で約20分の相島。相島には中学生で組織された消防クラブがあり、約70年の長きにわたり、島の安全・安心のために活動しています。

彼らの原動力は「自分たちの島は 自分たちで守る」という誇りと伝統を受け継ぐ心。

人口減少が進む相島では、3年前から町内の小・中学生を漁村留学生として受け入れ、相島少年消防クラブ（相島ＢＦＣ）の活動も、島の中学生と漁村留学生が団結して行っています。

▲相島分校全校生徒７人で活動

## なぜ、中学生が活動を？

相島には大正時代初期から現在の新宮町消防団水上分団にあたる消防組織がありましたが、団員の多くが漁業に従事しているため、漁業の最盛期には島内に残るのがほぼ女性と子どもになっていました。

相島は大火を経験したこともあり、昭和23年に新宮中学校相島分校の生徒会が「夜回りをして火の用心を呼びかけよう」と自主的に活動を開始し、少年消防隊を経て、昭和30年に相島少年消防クラブとなりました。

## 島内に響く「火の用心」

漁村留学生が帰宅した後、相島在住の中学生3人は、週4日、夜9時ごろから拍子木を打ち「火の用心」と言いながら島内を回る「夜回り」を行っています。ときには「テレビを観たい」「のんびりしたい」という気持ちを我慢して、火の用心を呼びかけています。

長年相島に住む人は「一人暮らしだから、火の用心が聞こえたらほっとする」「相島ＢＦＣの声が聞こえてきたら、火を消したかな、と台所を見に行く」などと話します。火の用心の呼びかけのみならず、夜回りは島の安全・安心にもつながっています。

▲拍子木は卒業生の卒業制作

## 年に一度の一斉夜回り

相島ＢＦＣは、毎年11月に北組・中組・南組に分かれて各家に火の用心を呼びかける「一斉夜回り」を行っています。一斉夜回りは漁村留学生も参加していますが、本年度は感染症対策で宿泊を回避するため、初めての試みとなる「昼間の一斉夜回り」を行いました。

一斉夜回りでは、毎年各家庭を訪問し、手作りの「火の用心ステッカー」を配っています。

島民からは「おつかれさま」「いつもありがとう」などの声かけがあり、心温まる交流の場ともなっています。

▲一人ひとりに「火の用心」を呼びかけます

## 機敏な動作、軽可搬ポンプ操法

相島ＢＦＣの活動は、夜回りだけにとどまりません。粕屋北部消防本部と新宮町消防団水上分団の指導を受けながら、防火知識の習得と規律訓練、大人でも重いホースなどを巧みに操る軽可搬ポンプ操法などを行っています。

適切な知識と機敏な動作は日ごろの訓練の賜物で、過去には相島ＢＦＣが初期消火を行い、大惨事になるのを防いだこともあります。

軽可搬ポンプ操法で使うホースは約3.6㎏、総延長は約20ｍあり、大人でも簡単に扱うことはできません。何度も何度も練習を重ね、大人にも劣らない技術を習得していきます。

毎年、入団式後の初めての訓練では、新入生が「まわれ右」「左向け左」などに悪戦苦闘しています。先輩たちが見本を見せると、「すごい…」と思わず言葉が出ることもしばしばあります。しかし、先輩からのアドバイスや自主練習を重ね、運動会などで立派な操法を披露するようになっていきます。

相島分校に赴任した先生たちも操法の経験がありませんが、生徒たちとともに学びながら活動を応援しています。教え合い、常にさらなる高みをめざす相島ＢＦＣの良さが操法に現れています。

▲先輩からアドバイス

◀気迫あふれる放水

▲操法前の服装チェックも自主的に声をかけあって行います

### 粕屋北部消防本部からのコメント

約70年にわたる相島 BFC 活動に敬意を表します。

ご縁がありまして、相島 BFC 活動に携わっていますが、クラブ員のはつらつとした活動に取り組む姿勢にこちらが元気をもらっています。

相島 BFC の良き伝統を守り、クラブ員が「島の宝」として活躍されるよう、期待しています。

予防課
徳永さん

## 新体制で活動開始

11月の一斉夜回りが3年生にとって最後の夜回りとなり、これから新入生を迎えるまでの間は、島に住む1年生・2年生2人で夜回りをすることになります。不安と期待が混じった表情で「2人になるけれど頑張る」と話していました。

11月19日には退団式が行われ、正式に新体制での活動がスタートしました。これまで、多数の活動が評価され、内閣総理大臣表彰などを受賞してきた相島ＢＦＣ。これからも伝統と工夫を重ねながら、相島ＢＦＣの活動は続いていきます。

▲相島分校に貼ってある歴代の火の用心ステッカー